

# 木のレジスター(引出しが出ない)

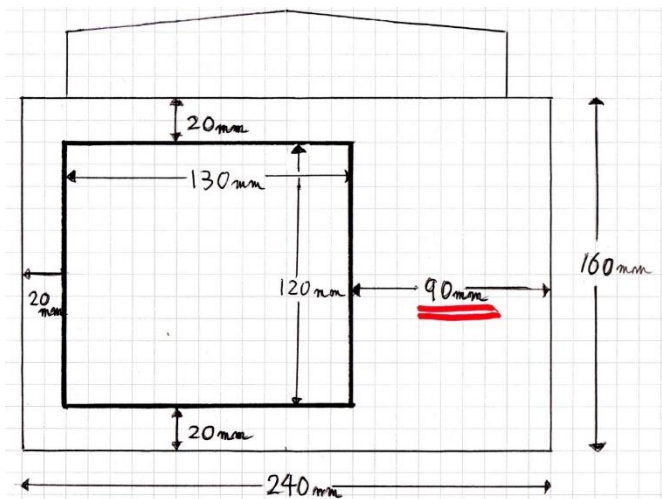
ゆきや (2024.6.3 改訂)



素朴な温かみのある木製のレジスターです。テンキーのボタンなども木製です。そのボタンの不具合です。どのボタンも押して遊ぶだけで、電氣的に反応するものではありません。

右下の **¥** のボタンは完全に落ち込んでいて、**OPEN** を押しても、引出しが出ません。数字②のボタンも半ば落ち込んでいます。ボタン群を後ろから押しているゴムが劣化するか、切れているのでしょうか。

レジスター全体が木製で、材がすべて接着されているため、分解は出来ません。手を入れて修理するために、背面を大きく切開します。内部のメカを傷めないように、切開するのは、およそ図のような範囲です。背面内部に取り付けられている板バネを避けるためです。



背面の右端から**90mm** の所にカッターを入れ、穴の大きさは、縦120×横130mmぐらいが適当です。上、左、下の寸法は、特に制約するものではありません。できるだけ穴を大きくし、しかも全体を弱めないように、縁の幅は20mm程度としてみました。



カッターで背面を大きく切開しました。底の引出しが見えています。

背面には大きな板バネが付いていました。  
**OPEN**ボタンが押されるとロックが外れ、板バネが引出しを前に押し出すのです。

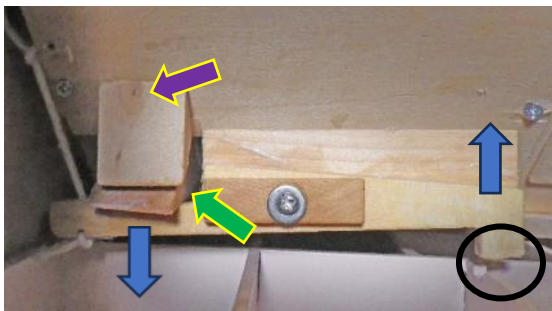


先にこの**引出しのメカ**について見ておきましょう。  
引出しをロックしているのが、中央をネジで止めているこのレバーです。ネジを中心にしてシーソーのように動きます。左端に輪ゴムが見えます（**黄丸**）。**赤矢印**の所に、伸ばして留められていた筈ですが、今はゴムが切れています。



ゴムの役割は二つあります。

- ①レバーを引っ張って、右端の突起を下に動かし、引出しをロックする。（**青矢印**）
- ②**緑矢印**のパーツを介して、表面にある**OPEN**ボタンを押し上げる。**紫矢印**はガイド役です。



ゴムを、少し太く丈夫なゴム紐にしてみました。  
**OPEN**ボタンを押すと、**緑矢印**のパーツがレバーを押し下げ、**青矢印**のように動いてロックを解除。背面の板バネの力で引き出しは押し出されます。逆に引出しを押し入ると、レバーが引き出しの**黒丸印**にはまり込んで、ロックされます。

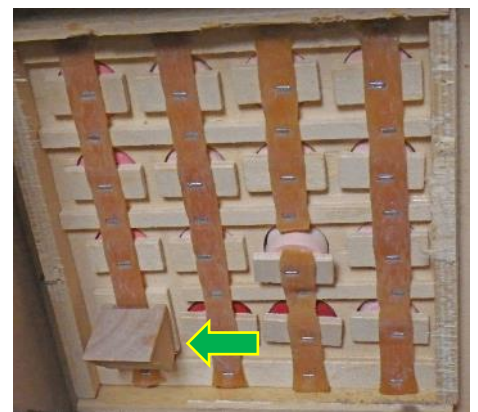
さて**テンキーの裏側**は、薄い合板でカバーされていました。



それを外したのが右の写真です。キーが一つ一つ、ホッチキスで生ゴムのベルトに留められていました。

**OPEN**ボタンだけ、裏側にレバー操作のパーツ**緑矢印**

が付いています。レバーを滑らかに押すように、先端が斜めにカットされています。グリスを塗っておきました。







生ゴムが切れている所がありました。  
陥没していた数字②のボタンの裏側です。  
また、その下の赤い **小計** ボタンの裏側の生ゴムも、弱って細くなっています。このままだと切れてしまうでしょう。

他にも弱っている所が3か所ほどありました。

これをどうやって復旧するか？修理方法をあれこれ思案する内に、まことにあっけないことに気が付きました。

百均の輪ゴム売り場に、幅の広い輪ゴムバンドが売られていたのです。これはおよそ12ミリ幅のもので、15本入って110円です。もっと広い20ミリ幅もありましたが、この場合は、12ミリが最適でした。輪を切り開くと長さ12センチ、1列全体をカバーすることができます。



切れている所、弱っている所、  
全体に新しいゴムバンドを貼りました。  
厚みは1ミリも無いから、裏板にも影響しません。

接着剤は、ボンドのG17を使いました。

問題がもう一つ残っていました。大きく切開した所の復元です。  
板バネの力を支えるだけの強さが必要です。接着剤で貼るだけでは済みません。  
切開部分の両側に、裏から補強材を貼り足しました（橙丸印）。  
ここに外した裏板をねじ止めして、修理完了しました。

以上

